

人類の出現と文明プリン ト

名前

問1 古代メソポタミア文明において、川のほとりで得られる粘土を板状にし、そこに葦（あし）などの茎の先を押し当てて刻まれた、独特の形状を持つ文字を何とといいますか。 (2024年 奈良公立入試 類似)

1. 楔形文字 2. 象形文字 3. 甲骨文字 4. アルファベット

問2 古代エジプト文明の特色について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 青森県公立入試 類似)

1. ナイル川の氾濫時期を知るために天文学が発達し、太陽暦が作られた。
2. チグリス・ユーフラテス川の流域で栄え、粘土板に楔形文字が刻まれた。
3. 時間をはかる単位として60進法が発明され、1週間を7日とする制度が生まれた。
4. 各地に都市国家（ポリス）が成立し、市民による進んだ民主政治が行われた。

問3 日本で小野妹子が遣隋使として派遣された607年頃を含む7世紀初めに、アラビア半島でムハンマドによって創始され、その後の世界の歴史に大きな影響を与えた宗教は何ですか。 (2021年 新潟県公立入試 類似)

1. イスラム教 2. キリスト教 3. 仏教 4. ユダヤ教

問4 紀元前5世紀頃の世界各地の統治形態を比較したとき、当時のギリシャにおける状況を説明したのとして最も適切なものはどれですか。 (2022年 大分県公立入試 類似)

1. 有力な王や皇帝が広大な領土を一括して支配する中央集権的な国家が形成されていた。
2. ポリスと呼ばれる小規模な都市国家が数多く成立し、それぞれが独立して統治を行っていた。
3. ピラミッドを建設した王のように、神の化身としての絶対的な権力を持つ個人による統治が主流であった。
4. 万里の長城などの大規模な土木作業を国家の総力で指揮する、強力な皇帝による統治が行われていた。

問5 メソポタミア文明において、太陽暦や楔形文字といった文化が発達した地理的な背景として、適切な説明はどれですか。 (2016年 大分県公立入試 類似)

1. チグリス川とユーフラテス川という二つの大河の恵みにより農業が発達し、収穫物の管理や記録の必要性が生じたため。
2. ナイル川が毎年決まった時期に氾濫するため、その時期を正確に把握するための測量術や暦が必要となったため。
3. インダス川流域のような計画的な都市構造を持たなかったため、個別の住宅で排水を管理する必要があったため。
4. 広大な黄河流域において、天の意思を占うための記録媒体として粘土が最も入手しやすかったため。

問6 1492年に製作された現存する世界最古の地球儀には、当時のヨーロッパ人が存在を知らなかった南北アメリカ大陸が描かれていません。この大陸の南部に位置するアンデス山脈を中心に、16世紀前半にスペイン人に滅ぼされるまで独自の石造建築文化を築いた帝国を何とといいますか。 (2026年 大阪公立入試 類似)

1. インカ帝国 2. アステカ文明 3. マヤ文明 4. インダス文明

問7 紀元前2500年ごろ、インド亜大陸北西部のインダス川流域に成立した古代文明について、モヘンジョ・ダロやハラッパなどの遺跡に見られる都市の大きな特徴として最も適切なものはどれですか。 (2018年 東京都公立入試 類似)

1. 下水道や公衆浴場などが整備された、高度な計画都市が建設された。
2. 国王の権威を示すために、巨大な石造りのピラミッドや神殿が建設された。
3. ジグuratと呼ばれる聖塔を中心とした、複数の都市国家が形成された。
4. 青銅器とともに甲骨文字が用いられ、大規模なかんがい農業が行われた。

問8 古代エジプト文明の特色について述べた説明として、文化的な特徴と建築物の組み合わせが正しいものはどれですか。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)

1. 事物の形をかたどった象形文字（ヒエログリフ）を使用し、王の墓とされるピラミッドを建設した。
2. 粘土板に刻まれた楔形文字を使用し、天体観測の結果をピラミッドの壁面に記録した。
3. 亀の甲羅などに刻まれた甲骨文字を使用し、ナイル川のはんらんを鎮める儀式を行った。
4. 太陽暦を用いてはんらん時期を予測し、ジグuratと呼ばれる聖なる塔を各地に建設した。

問9 7世紀頃の世界情勢において、大国であるビザンツ帝国とササン朝が長年対立した結果、従来の交易路が避けられるようになりました。これに代わる新しい中継貿易のルートとして繁栄し、ムハンマドが活動を始めたアラビア半島の都市はどこですか。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)

1. エルサレム 2. ローマ 3. メッカ 4. バグダード

問10 宗教の歴史について、7世紀のアラビア半島を中心に興ったイスラム教の成り立ちとして最も適切な記述はどれか。 (2026年 三重公立入試 類似)

1. ムハンマドが唯一神アラーから受けた啓示に基づき創始した。
2. シャカが修行を通じて、人間の苦しみを克服する教えを説いた。
3. パレスチナ地方でイエスが説いた教えを弟子たちが広めた。
4. インドの伝統的な信仰とアーリア人の宗教が結びついて成立した。

問11 弥生時代から古墳時代にかけての道具の使用目的や技術的特徴について、正しい説明を述べているものはどれですか。 (2018年 長野県公立入試 類似)

1. 大陸から伝わった技術により、高温の窯で焼かれた灰色で硬質の須恵器が作られるようになった。
2. 狩猟や採集が中心の生活の中で、食料を保存するために表面が硬い打製石器が開発された。
3. 稲作が始まったことで、土を耕すための道具として縄文土器が各地で広く使われるようになった。
4. 定住生活が始まったことで、木の実を粉にするために、網目の文様をつけた磨製石包丁が開発された。

問12 7世紀の世界のできごとを記した年表において、ムハンマドという人物がアラビア半島でおこしたとされる宗教について、その教義と聖典の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2019年 沖縄公立入試 類似)

1. 唯一神アラーを信仰し、信者同士の助け合いなどの正しい行いを説き、『コーラン』を聖典とする。
2. 救世主としてのイエスを信じ、隣人愛を説き、『新約聖書』を聖典とする。
3. 悟りを開くことで苦しみから解放されると説き、多くの『経典』を聖典とする。
4. 万物に神が宿ると考え、自然を崇拜し、特定の聖典を持たない。

問13 四大文明において発達した文字のうち、中国の黄河文明の流れを汲む「甲骨文字」に関する説明として、他の文明の文字と混同しないよう正しく述べたものはどれか次の中から選びなさい。 (2020年 新潟県公立入試 類似)

1. 亀の甲羅や動物の骨に刻まれた象形文字であり、東アジアで広く使われる漢字の起源となった。
2. メソポタミアで発達し、粘土板に葦の茎を押し当てることで鋭い直線の組み合わせとして表現された。
3. エジプトで発達し、パピルスと呼ばれる紙のような材料に宗教儀礼の内容などが記された。
4. インダス川流域で見つかった石の印章などに刻まれており、現在も解読が進んでいない文字である。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 楔形文字	ティグリス川・ユーフラテス川流域のメソポタミアでは、石材やパピルスが少なかった一方で、質の良い粘土が豊富に得られました。そのため、乾く前の粘土板に尖った道具を押し当てて記録する手法が発達しました。その刻み跡が「くさび」の形に見えることから、この名称で呼ばれています。
問2	答え 1 ナイル川の氾濫時期を知るために天文学が発達し、太陽暦が作られた。	エジプトは「ナイルのたまもの」と呼ばれるように、ナイル川の定期的な氾濫が肥沃な土壌をもたらし、農業を発展させました。この氾濫の時期を正確に知る必要から天文学が進歩し、太陽暦が生まれました。他の選択肢にある楔形文字、60進法、1週間を7日とする制度はメソポタミア文明の特徴であり、都市国家（ポリス）や民主政治は古代ギリシャの特徴です。
問3	答え 1 イスラム教	ムハンマドは7世紀初めに唯一神アッラーの啓示を受けたとして、アラビア半島のメッカでイスラム教を開きました。この時期の日本は飛鳥時代にあたり、聖徳太子（厩戸王）が隋（中国）へ小野妹子を派遣して大陸の制度を学ばせ、中央集権国家の確立を目指していた時期と重なります。
問4	答え 2 ポリスと呼ばれる小規模な都市国家が数多く成立し、それぞれが独立して統治を行っていた。	紀元前5世紀頃のギリシャは、エジプトや後に登場する秦・ローマ帝国のような大規模な統一国家ではなく、「ポリス」と呼ばれる自立した都市国家が集まって構成されていました。アテナやスパルタといった各ポリスは独自の統治を行っており、特にアテナでは市民による民主政が発達するなど、広域を支配する君主制とは異なる政治文化を持っていました。
問5	答え 1 チグリス川とユーフラテス川という二つの大河の恵みにより農業が発達し、収穫物の管理や記録の必要性が生じたため。	農業の発達により集団生活が大規模化すると、神殿での貢納品の管理や商業取引の記録が必要になりました。そこで身近にあった粘土を利用して楔形文字が刻まれ、農業に不可欠な時期の把握のために暦が発達しました。ナイル川の氾濫はエジプト文明、計画的な都市構造はインダス文明、占いによる記録は中国文明の文脈です。
問6	答え 1 インカ帝国	南アメリカ大陸のアンデス山脈沿いに広まったこの帝国は、文字を持たない代わりに「キープ」と呼ばれる紐の結び目で情報を記録し、マチュピチュのような高地都市や精巧な石造建築を発達させました。1492年の地球儀に描かれていないのは、コロンブスの到達以前でヨーロッパにその存在が知られていなかったためですが、16世紀にピサロ率いるスペイン人によって征服されました。
問7	答え 1 下水道や公衆浴場などが整備された、高度な計画都市が建設された	インダス文明の代表的な遺跡であるモヘンジョ・ダロやハラッパは、焼成レンガを用いた整然とした街並みが大きな特徴です。特に、網の目のように張り巡らされた排水用の下水道や、共同で利用されたと考えられる大規模な公衆浴場などは、当時の技術水準が極めて高く、都市が極めて計画的に設計されていたことを物語っています。
問8	答え 1 事物の形をかたどった象形文字（ヒエログリフ）を使用し、王の墓とされるピラミッドを建設した。	エジプト文明では、事物の形を簡略化した象形文字（ヒエログリフ）が用いられ、王（ファラオ）の権力を象徴するピラミッドなどの巨大建築物が造られました。楔形文字やジグuratはメソポタミア文明、甲骨文字は中国文明の特徴であり、それぞれ発生した地域や背景が異なります。
問9	答え 3 メッカ	当時のビザンツ帝国とササン朝の戦争を避けるため、商人はアラビア半島を経由するルートを多用するようになりました。その中継地点として繁栄したメッカは、イスラム教の創始者ムハンマドの出身地であり、現在もイスラム教の最も重要な聖地とされています。
問10	答え 1 ムハンマドが唯一神アッラーから受けた啓示に基づき創始した。	アラビア半島のメッカに生まれたムハンマドが、唯一神アッラーの啓示を受けて創始したのがイスラム教です。他の選択肢について、シャカは仏教、イエスはキリスト教、インドの伝統信仰との結びつきはヒンドゥー教の成り立ちを説明したものです。
問1	答え 1 大陸から伝わった技術により、高温の窯で焼かれた灰色で硬質の須恵器が作られるようになった。	古墳時代には、朝鮮半島から渡来した人々の技術によって、従来の赤褐色の土器（埴輪や土師器など）とは異なる、窯を用いた高温焼成の「須恵器」が生産されるようになりました。磨製石包丁は弥生時代に稲刈りの道具として使われたものであり、縄文土器は縄文時代の煮炊き用具、打製石器は旧石器時代の狩猟・加工用具であるため、それぞれの時代背景や用途と一致しません。
問1	答え 1 2 唯一神アッラーを信仰し、信者同士の助け合いなどの正しい行いを説き、『コーラン』を聖典とする。	イスラム教は7世紀にムハンマドによって創始されました。唯一神アッラーを信じる一神教であり、その教えは聖典『コーラン』にまとめられています。教義の中では、信仰だけでなく、信者同士の連帯や助け合いといった社会的な実践（善行）も強く推奨されているのが特徴です。
問1	答え 1 3 亀の甲羅や動物の骨に刻まれた象形文字であり、東アジアで広く使われる漢字の起源となった。	古代文明で生まれた文字はそれぞれ特徴的な素材に記されました。メソポタミアの楔形文字は粘土板に、エジプトのヒエログリフはパピルスや石碑に、インダス文字は印章に記されています。これらに対し、中国の殷で生まれた甲骨文字は亀の甲羅や獣骨を媒体とした点が特徴です。また、他の文字の多くが減ひたり音を表す文字に変化したりした中で、甲骨文字は意味と音を併せ持つ漢字の直接の祖先として、現代までその系統が続いている点で非常に特異な存在と言えます。